# 特集

## 写真アーカイブズ
## 資料アーカイブズ

# 特集1 写真資料を基に歴史をふり返る 写真アーカイブズ

## 平塚駅北口の変遷

当社では、1953年に本社を平塚に構えたことから、平塚駅周辺の写真が多く残されている。
平塚といえば「湘南ひらつか七夕まつり」が有名で、祭り期間中は県内外から約155万人が訪れている。

①1959年撮影　七夕飾りの下を走行するバス
②1961年撮影　駅舎側から広場を撮影
③1968年撮影　かつては、人魚像「海の賛歌」と噴水は北口にあったが、駅前広場の改修に伴い南口に移設されている
④1971年撮影　奥に見えるのが駅舎
⑤2017年撮影　神奈中グループとして毎年七夕飾りを掲出している
⑥2021年撮影　北口のバスロータリー

## マークの変遷

1944年に社紋が制定され、“K.C.B.co”の表記とともに車体側面にあしらわれるようになった。なお、創立60周年を記念して復元した代燃車の「三太号」側面には社紋横に“K.C.K.co”とペイントされていることから、1951年に英文会社名の略称を「K.C.K.」と制定したのち、数年間はそのような表記をしたと推測される。2001年からはバスの前面に平仮名で“かなちゅう”と表記し、神奈交バスの自社車両には“かなこう”と表記した。現在は神奈中グループとしてのブランドマークをあしらっている。

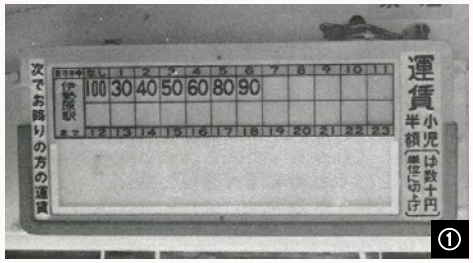
（参考）
復元した代燃車の三太号には、えんじ色の社紋の横に“K.C.K.co”とペイントされている

①1948年撮影　車体の側面には、社紋横に“K.C.B.co”とペイントされていた（神奈川中央乗合自動車）
②撮影年不明　ペイントの代わりに、丸みを帯びた社紋のプレートが側面に貼付された
③1992年撮影　2004年までに導入された車両には、旧型と比べると平面的な社紋のプレートが前面に取り付けられた
④2007年撮影　2001年から社名の略称を平仮名で表記し、車体の前面・側面・後面に貼付した
⑤2017年撮影　2012年から神奈中の頭文字であるKを三重線でまとったフォルムのブランドマークを貼付した

# 表示の変遷（一例）

≪運賃表示≫当初は運賃板を系統ごとに差し替えていたが、機器改善により表示幕が自動巻取りになった。デジタル化が進んだ現在では、画面右側に終点と先々の停留所名が表示され、乗客の利便性が格段に向上した。
≪行先表示≫かつては表示幕を手で回して行先を設定していた。やがて、電動の巻取りに替わるも、目視で回転を止めるため表示がずれてしまうことがあった。その後、機器が改良され手元の操作盤の番号で行先を設定できるようになったが、巻取りに時間がかかっていた。デジタル化した現在は、すぐに表示を変更でき、乗務員の負担も大幅に軽減した。

≪運賃表示≫



①1973年撮影　箱型の内部には照明装置がつき、表示幕が自動巻取りとなった
②1983年撮影　表示がデジタル化し、左側には次の運賃ポイントの停留所名を表示
③1997年撮影　1995年から次の停留所名が表示できる改良型を採用
④2014年撮影　現金運賃とIC運賃を2段で併記

≪行先表示≫

①1971年撮影　幕による表示形式で、起点と終点を記載し、小窓にはワンマンと表示
②1987年撮影　1985年から順次大型の表示幕に変更し、始発停留所名の割愛により視認性が向上した。
また、1986年からは運行系統番号を表示した
③2012年撮影　2002年から順次橙色LEDのデジタル表示に変更
④2017年撮影　2016年から順次白色LEDに変更

# 観光地を行くバス

創業間もない頃から観光バス（貸切バス）の営業を行っており、1953年6月に観光バスのイメージアップを図って赤白青の3色のカラーデザインに変更している。1989年からは夜間高速バスの運行が始まり、横浜から奈良、大阪、京都などへとバスを走らせた。現在では、首都圏近郊の人気観光地やアウトレットモールなどへ、乗り換えなしでアクセスできる直行の都市間高速バスを運行している。

①1981年撮影　観光バス（志賀高原）1977年からセミデッカーを導入
②1986年撮影　観光バス（嬬恋村）1982年に曲線的な波形から直線的なデザインに変更（写真：鈴木文彦氏より提供）
③1991年撮影　観光バス（横浜ベイブリッジ）1989年にデザインを一新したスーパーハイデッカー。淡いブルーを基調とし、トリコロールカラーをハイウェイラインにパターン化した
④1991年撮影　夜間高速バス（京都駅前）1989年から運行を開始した夜間高速バスのスーパーハイデッカー。カラーは、青（湘南の海）・黄（かもめ＝県の鳥）・白（高速道路）を基調にデザインされた。現在でも、二人掛けタイプの路線バスにはこのデザインが採用されている
⑤2015年撮影　都市間高速バス（河口湖駅前）　1999年から空港リムジンバスをはじめ、都市間高速バスは白をベースにしたデザインに変更

# 1963年頃の風景

上段が営業所、中段が待合所･国鉄連絡の駅、下段が整備工場の写真である。これらの写真はほぼ同じ年代に撮影されており、時代の変化の境目がわかる貴重な資料となっている。④と⑤は国鉄連絡の停留所で、停留所名に「駅」とつくのが特徴である。

①秦野営業所
②津久井営業所
③原町田駅前待合所
④秦野町駅（国鉄連絡）
⑤相模中野駅（国鉄連絡）
⑥町田営業所整備工場
⑦伊勢原営業所整備工場

# 特集2 現物資料を基に歴史をふり返る 資料アーカイブズ

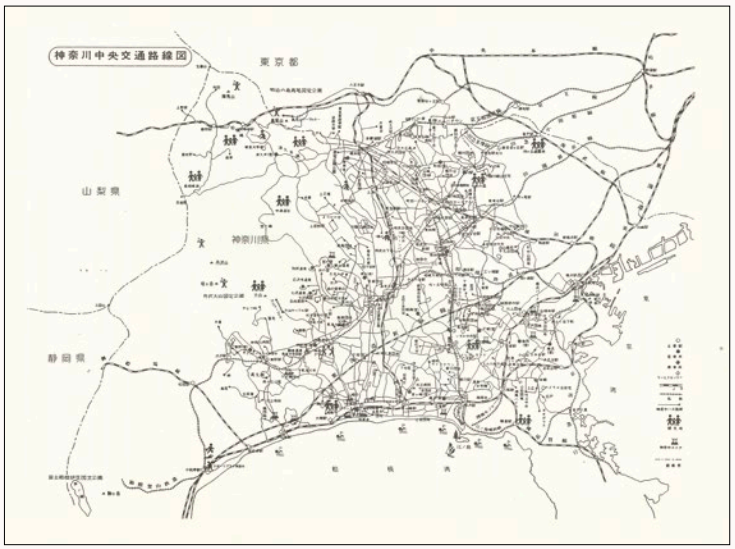
## 路線図

有価証券報告書に添付された路線図。年を経るごとに書き込みが細かくなり路線が大幅に増えたことが分かる。1953年度の輸送人員は約80万人だったが、現在では年間1億7,098万人の方に利用いただき、一日の走行距離は地球約4.4周分にもなる。

1954年3月頃

1961年9月頃

1974年9月頃




1996年3月頃

# 各種乗車券等と記念乗車券

東海道乗合自動車の時代から現在にいたるまでの各種乗車券等（左ページ）と記念乗車券（右ページ）の一例。一日フリー乗車券については、スクラッチ式から磁気券式に替わり、現在ではICカードにも対応している。

東海道乗合自動車
3区20銭自動車乗車券

東海道乗合自動車　5銭補助券

自動車乗車券　5円

乗合自動車回数券　5円

有料道路利用料金券

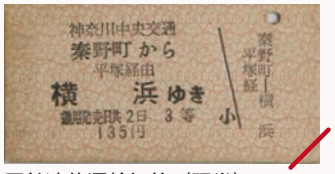
バス乗車券（急行券）

バス乗車券　65円

平塚営業所立売自動車乗車券
15円回数券
※営業所ごとに券面の色が異なる

バス停留所券　100円

七夕会員券　800円



国鉄連絡運輸切符（硬券）

深夜急行バス（新宿駅～町田駅）乗車券　3,000円

ギフト回数券の表紙　2,000円

かなちゃん手形　紙券式

かなちゃん手形　磁気券式

一日フリー乗車券　スクラッチ式

一日フリー乗車券　磁気券式

創立60周年記念乗車券の
チケットケース（左上）と
5枚セット券（1981年発行）

創立70周年記念　神奈中バスカード（1991年発行）

創立80周年記念　バス共通カード
（2001年発行）

創立85周年記念　バス共通カード（2007年発行）

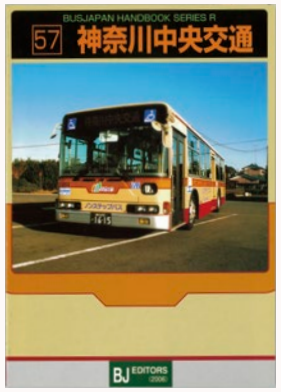
2019ゴールデンウィーク神奈中10日間フリーパス　左が神奈中バージョン、右がかなみんバージョン（2019年発行）

## 掲載媒体の一例

当社バスが絵本や専門誌などの表紙に取り上げられ、子どもから大人まで当社のバスが幅広く親しまれている。

『まきバス三太号　―木炭自動車復原ものがたり―』
出版：岩崎書店　発行：1982/7/1
作：北川幸比古、絵：保田義孝

『木炭バスの走ったころ　代用品にみる戦中・戦後のくらし』
出版：名古屋市博物館　発行：2000/2/26




『BJハンドブックスシリーズ　No.57』
出版：BJエディターズ　発行：2006/1/1

『広報ひらつか　No.948』
出版：平塚市　発行：2011/12

『こどものとも 0.1.2.　のりたいな』
出版：福音館書店　発行：2012/5/1
作：みやまつともみ

『マイウェイNo.84』
出版：財団法人はまぎん産業文化振興財団（現・公益財団法人はまぎん産業文化振興財団）
発行：2012/9

『よみきかせお仕事えほん　みんなをのせてバスのうんてんしさん』
出版：講談社　発行：2013/6/28
作：山本省三、絵：はせがわかこ

『BUSRAMA INTERNATIONAL　168』
出版：ぽると出版　発行：2018/6/25